

# 団結と勝利は 祖国と社会主義の現在と未来である

## — ディアス=カネル大統領 2 期目スタート —

4月19日、人民権力全国会議（国会）において、ディアス=カネル大統領が再選され、2期目に入りました。

ホセ・マルティの「尊厳と生存」、フィデル・カストロの「祖国か死か！」の  
マインドは、ディアス=カネル大統領演説にも脈々と受け継がれています。

### ディアス=カネル大統領再選のごあいさつ—要旨—

- 1961年4月19日、プラヤ・ヒロン海岸で、キューバは、アメリカ帝国主義を打ち破った。それで、現在この日を祝うことができる。敗者は62年経っても私たちに許すことができない。
- キューバは、ホセ・マルティがキューバ革命党を創設して以来、団結を保障してきた単一政党を擁護している。キューバ革命党は、私たちの歴史の根底にある。たとえ二つの政党が交互に政権をとっても両者を区別することは非常に難しい。共和党のトランプが実施した封鎖強化策はすべて政敵である民主党のバイデンが維持している。
- 強力な隣国は革命を破壊するため、キューバの国内秩序の破壊を申し出た者たちに毎年数千万ドルを供与している。
- パンデミックの中で残酷にも封鎖は強化された。すべての金融ルートを封鎖するために想像上のテロ支援国リストにキューバを加え、街頭での反乱を奨励し、貿易や融資のあらゆる可能性を閉ざし、私たちへの支援を妨害している。
- キューバは勝利を収めつつある。プラヤ・ヒロンと同様に、私たちのさらなる勝利を私は信じて疑わない！
- 遅かれ早かれ、覇権主義的政策を止めなければならない。多国間主義がそれに代わり、圧力や封鎖からキューバが解放されたとき、キューバがどこまで発展できるか証明することができる。
- この5年間（1期目）の動きを検討すると、最悪の状況と犯罪的な圧力の下で、私たちは自らの努力と才能でパンデミックから身を守った数少ない国のひとつであったことがわかる。
- この半年間にキューバでは3つの国民投票（家族法の国民投票、代議員選挙、国会議員選挙）が行われた。投票率75.8%という、歴史的な棄権率だが、世界の他の民主主義モデルの平均をはるかに上回っている。
- 国会が若返ったことを大変うれしく思う。若者たちは日々の困難を認識し、それに立ち向かい、変えようとし、何度も成功する最高の革命家であり、より良い国の可能性を信じている。若者たちに、祖国で自己実現が可能であることを納得させなければならない。何よりもそれを証明しなければならない。
- なぜ革命なのか、なぜ社会主義なのか。しばしば、私たちは革命を目的、ゴールと考えることがあるが、革命は手段であり、可能な限りの社会正義とすべての人の幸福を達成するための方法である。
- キューバ国民は戦うことに飽きることのない英雄的な国民であり、その英雄性が、ほぼ2世紀を経た今なお人々を鼓舞し続ける指導者マルティとフィデルを生んだ。
- キューバ革命の指導者であり、闘いの伝統の継承者であり、またわが国で最高の責任を担う私たちの導き手であるラウル、あなたの支援と信頼に感謝する！私たちは決して信頼を裏切らない。
- 私は、情熱と責任感をもって、一心不乱に、最後の結果まで皆さんに仕えることを誓う。
- 団結と勝利は希望であり、団結と勝利は祖国と社会主義の現在と未来である！

**祖国か死か！  
我々は勝利する！**

**2・3面は、  
2023秋・CUBAPON 訪問団  
のご案内です！**



初の訪問となるカストロセンター



サンタクララに立つチェ・ゲバラ



旅人を魅了する古都トリニダ



革命広場のチェのオブジェ



子どもたちの笑顔に出会う



(往路) メキシコシティ市内観光

# 4年ぶりのキューバへ！

コロナ禍で中断を余儀なくされたCUBAPON友好訪問団ですが、今年秋、「4年ぶりのキューバ」訪問団を実施します。

キューバはこの間、米国の60年以上にわたる経済封鎖に抗して通貨統一、労働改革、経済改革を進め、生き抜くために奮闘してきました。

頑張るキューバをぜひ体感してください！



日 時	都市名	スケジュール	食事
1 11/25 (土)	東京成田空港発 メキシコシティ着	午後：アエロメヒコで空路、メキシコシティへ メキシコシティ市内観光 【メキシコシティ泊】	夕：機 昼：機 夕：○
2 11/26 (日)	メキシコシティ発 ハバナ	アエロメヒコで空路、ハバナへ。着後、ホテルへ ◇ ハバナ市内観光（世界遺産・旧市街とモロ要塞）【ハバナ泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
3 11/27 (月)	ハバナ サンタクララ トリニダ	朝食後、専用車でサンタクララへ ◇ ゲバラ廟、ゲバラ博物館、列車転覆記念館見学 ◆ 農場見学後、トリニダへ（2h） 【トリニダ泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
4 11/28 (火)	トリニダ ハバナ	◇ 朝食後、世界遺産・古都トリニダ見学 昼食後、ハバナへ移動（4h） 【ハバナ泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
5 11/29 (水)	終日ハバナ	朝食後、◆ ファミリー診療所見学 ◆ 諸国民友好協会（ICAP）表敬訪問 ◇ ヘミングウェイゆかりの漁村コヒマルで昼食 ◇ カストロセンター見学 ◆ キューバ労働者中央組織（CTC）表敬訪問 【ハバナ泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
6 11/30 (木)	ハバナ ハバナ発 メキシコ空港着	ホテルチェックアウト ◇ 革命博物館・革命広場など見学 昼食後、空港へ移動、空路、メキシコシティへ メキシコシティでトランジット 【機中泊】	朝：○ 昼：○ 夕：—
7 12/1 (金)	メキシコ空港発	-----日付変更線----- 【機中泊】	朝：— 昼：— 夕：機
8 12/2 (土)	東京成田空港着	成田着（6：30着予定） お疲れさまでした	朝：機 昼：— 夕：—

## 青年の島オプションコース

6 11/30 (木)	ハバナ バタノ港 青年の島港 又エバ・ヘローナ	ホテルチェックアウト後、乗船チェックイン（8：00） 船で青年の島へ ホテルにチェックイン 【青年の島泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
7 12/1 (金)	終日、青年の島	朝食後、◆ 小学校見学 ◆ 稲作プロジェクト現地視察 ◇ 革命史跡「モテロ監獄」見学 ◆ 日系移民124周年記念「友好の家」予定地視察 ◆ 日系移民の皆さんと交流 【青年の島泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
8 12/2 (土)	又エバ・ヘローナ 青年の島港 バタノ港 ハバナ	ホテルチェックアウト後、港へ 船でハバナへ ◇ 革命広場など見学 ホテルにチェックイン 【ハバナ泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
9 12/3 (日)	ハバナ ハバナ発 メキシコ空港着	ホテルチェックアウト ◇ 革命博物館見学 昼食後、空港へ移動、空路、メキシコシティへ メキシコシティでトランジット 【機中泊】	朝：○ 昼：○ 夕：—
10 12/4 (月)	メキシコ空港発	-----日付変更線----- 【機中泊】	朝：— 昼：— 夕：機
11 12/5 (火)	東京成田空港着	成田着（6：30着予定） お疲れさまでした	朝：機 昼：— 夕：—

## 2023 秋・CUBAPON 友好訪問団

2023 年 11 月 25 日（土）、成田出発

- 基本コース ～12 月 2 日《8 日間》
- 青年の島 OP ～12 月 5 日《11 日間》



視察も観光も

見どころいっぱいです！

《充実の視察》

- コロナ禍のさなか 59 カ国に 3 万人の医師を派遣したキューバの医療現場を訪問し、いのちとの向き合い方を体感します。
- 有機農業先進国キューバの農場を見学します。
- 諸国民友好協会（ICAP）や労働者中央組織（CTC）を訪問しお話をうかがいます。

《しっかり観光》

- 往路、メキシコシティを半日観光します。
- 世界遺産のハバナ旧市街とモロ要塞、古都トリニダ歴史地区で悠久のキューバの歴史を垣間見ます。
- ヘミングウェイの小説「老人と海」の舞台コヒマルでシーフードのランチをいただきます。
- チェ・ゲバラゆかりの地サンタクララ、近年オープンしたカストロセンターなど、キューバでは絶対に外せない革命史跡を訪ねます。

《青年の島 OP》

- 小学校を訪問し、島の子どもたちと交流します。
- 「日本人移民 125 周年」に思いを寄せて。島の日系人会との交流を深めます。
- フィデル、ラウル・カストロ兄弟も収監された革命史跡「モデロ監獄」を見学します。

## 参加ご希望の方はご一報ください

詳細な資料と申込書をお送りします。

- ・ 今後の情報次第で、行程が変更になる場合があります。
- ・ コロナ禍で、「行こうと思えばいつでも行ける」という状況ではなくなったことを実感しました。「いつか行ってみたい」と思っている皆さん、この機会に一歩踏み出してみませんか。
- ・ 「参加希望のご一報」をお待ちしています。♡

TEL : 03-3268-4387

E-mail jvccp@rmail.plala.or.jp

IFCC(鎌田)



## キューバへの日本人移民125周年

ラミレス・キューバ大使が CUBAPON の鎌田篤則事務局長と意見交換を行いました。現在の主要なテーマと併せて、キューバにおける日本人移民 125 周年を記念する活動について話し合いました。

—駐日キューバ大使館公式ツイッターより



Embajada de Cuba en Japón/ 駐日キューバ共和国大使館 @embacubajapon

Intercambió embajador @maramirezramos con Atsunori Kamata, secretario general del Comité de Solidaridad CUBAPON.

Dialogaron sobre principales temas de actualidad y actividades a desarrollar en el contexto del 125 aniversario del inicio de la emigración japonesa a Cuba.



午後3:40 · 2023年5月16日 · 236 件の表示



皆さまの協賛で2022年度もキューバ連帯活動を続けることができました。ありがとうございました。



## CUBAPON 2022 年度収支報告

● 支出		
会報印刷代	159,360	66号、67号、68号
その他印刷代	129,411	チラシ、封筒、資料等
送料・送金料	171,340	会報、連絡、郵振など
事務局諸費	47,860	HP、PCインク、交際費等
事業費	0	
緊急支援	251,000	
資料代	7,500	移民DVD贈呈用
借入金返済	0	21借入無し
計	766,471	
● 収入		
21繰越	18,211	
22会費	246,000	82人
22活動カンパ	204,800	42人から寄付
22緊急カンパ	251,000	35人から
事業収入	12,250	移民記録DVDプール金より
借入金	34,210	IFCCより
計	766,471	
※ 22緊急カンパ251,000円は訪問団が届ける予定だったが訪問団延期のためプールされており、今秋予定の訪問団で執行することにする。		
※ 前年度比で会員数及び活動カンパ件数が減少した。よって経常収支バランスは34,210円の借入が生じた。		
※会報3回発行の他、Eメール情報発信活動（10回発信）を行ってきた。		
※ 別会計の移民記録DVD製作プール金344,400円は宣伝費等12,250円をCUBAPON 会計へ。2022年度末残金は332,150 円。スペイン語版製作が進展しない場合、別途有効活用を考える。		



スペイン、バルセロナで、キューバで人気のデュオ「Buena Fe」のコンサートに妨害目的でファシストグループが乱入するという事件が起きました。

欧州の特定の国々でキューバ憎悪者による暴力が起きていることに対し、キューバ外務省が声明を出しました。



「Buena Fe」のふたり

### ● キューバ外務省声明

## 「キューバ文化に対するファシスト的憎悪の包囲網」(仮訳)

ここ数日、キューバの著名なアーティストや知識人が、国境を越えた極右勢力によって欧州の特定の国々で扇動、展開、実行された攻撃の標的となっている。最近の例では、スペインの複数の会場で音楽デュオ「Buena Fe」が嫌がらせ——非難されるべきだが、罰せられることなく——を受けた。フランスでは“詩のマルシェ”イベントの名誉会長である著名な作家ナンシー・モレホンに対して、非常識にもそのポストがはく奪された。

このような病的な憎悪の表出は、何も新しいことではない。数十年前、キューバ国民と世界は、マイアミの路上で著名なアーティスト、マヌエル・メンディーベの作品が燃やされるという許せない破壊行為を目撃した。それに加え、同市で開催された「ロス・バン・バン」の大規模なコンサートの観客に対する襲撃——妨害に失敗したが——をも目の当たりにした。

キューバ外務省は、キューバ文化の表現者を標的とするファシスト的行為を強く糾弾するものである。

同様に、それらの国々でわが国のアーティストのツアーや公演の企画を担当してきた企業関係者や文化プロモーター、施設運営事業者、海外の文化団体らが受けた強い圧力、威嚇、脅迫についても、これを非難する。

当省が認識するところでは、これらの極端な例はネオファシズム的イデオロギーの反動勢力を代表し、帝国主義に仕える諸組織から潤沢な資金援助を受けている少数派グループが引き起こしたものであり、その明確な目的はキューバの文化とアーティストをおとしめ、国民の歴史的・愛国的記憶と文化アイデンティティを薄れさせ、キューバ革命を破壊することにある。

キューバのアーティストや知識人は、参加したほぼすべての国際的な舞台で——上述の出来事があった国々ですらも——大多数の観客から最高級の歓迎を受けた。観客

ファシストたちの理不尽な攻撃のさなか  
ひとりの少女が僕を抱きしめて言った。

「だめよ。あなたはアーティストでしょう」  
彼女の声は、僕の家族の女性たちの声だった。

僕たちは大丈夫。

だけど仲間が、僕たちの代わりに殴られたんだ。  
僕たちはそのとき、ファシストの顔を見た。

僕たちの砦は音楽だ。

僕を踏みつける者を殴りつける最強の武器だ。

ーイスラエル・ロハス氏 (Buena Fe) Facebook より

は、彼らの中にキューバ文化の至上の価値と表現の大使を見出したのだ。

キューバ文化——非人道的で違法な経済封鎖に苦しんでいるが——は、平和、対話、寛容のメッセージの使者である。そしてキューバ文化は、米国と一部の同盟国による帝国主義の独占の利害が押し付けようとしている野蛮さ、憎悪、暴力に反対する。

連帯、平和、芸術へのコミットメントは暴力、不処罰、ファシズム、圧倒的な文化的植民地化に直面している私たちのアーティストの前提であり続ける。

キューバは、世界のあらゆる場所で自国の文化を紹介することを放棄せず、あらゆる攻撃に対して断固とした姿勢と団結をもって応じるものである。

2023年6月1日、ハバナ

### TOUR OPERATOR

アイエフシーは  
CUBAPON関連の手配旅行者です

キューバをあなたに届けます

◆ アイエフシーはFCC国際友好文化センターの関連旅行会社です。人と人との出会い”を通じた友好交流プログラムを演出します。

◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。

◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム 中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町316番地 菊地ハイツ101

TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079

# 「亡命、ダメ、ゼッタイ」の波紋

## キューバ人選手の「亡命」問題



中日ドラゴンズで9回を任せられている偉大な「守護神」ライデル・マルティネス投手は5年目で100セーブを記録しました。そのお祝いとして選手一同から送られたケーキに「亡命、ダメ、ゼッタイ」と書かれていたことを、いわゆる「人権派」「リベラル」と言われる層が「人権問題だ」として問題視したことから、中日ドラゴンズ公式ツイッターアカウントが炎上、中日新聞などに抗議が殺到する事態となりました。

発端は、3月にキューバから来日することになっていたジャリエル・ロドリゲス選手がトランジットのドミニカ共和国で姿をくらましたことです。

中日ドラゴンズは無名だったカマグエイのジャリエル投手を招致し、先発で結果が出ないジャリエルをセットアッパーに起用して才能を開花させ、ライデル、アリエルとともにキューバ代表選手に選ばれるほど成長しました。

ともにWBCで活躍したアリエル・マルティネスは「君ならきっと大リーグでも大活躍できるよ」とジャリエルに冗談を言ったと明かし、「本気にしてしまったのかも」とうなだれたそうです。

ジャリエルに通年契約を反故にされた中日ドラゴンズ、ともにプレイしてきたドラゴンズの選手たち、そして日本とキューバの野球ファンも、マルティネスにはジャリエルのようなことをしてほしくないと思うのは当然ではないでしょうか。

尚、日本の善良なりべらる層がありもしないキューバの人権問題に悲憤を募らせていたその頃、隣国メキシコのロペス・オブラドール大統領が、キューバの『本当の』人権問題について発言しました。

日本の「人権派」の皆さんとも、この視点をぜひ共有したいものです。

### 一ロペス・オブラドール メキシコ大統領

キューバは長い間、非人道的で悪名高く、国際法違反である経済封鎖に苦しめられながらも独立した政治を維持してきた唯一の国だ。

（米国とキューバは）もちろん政治体制は違うが、だからと言って、なぜ人民を苦しめるのか。経済封鎖を科すことは、明らかに『人権侵害』だ！



（左）亡命したと見られるジャリエル・ロドリゲス投手  
（中央）100セーブを挙げたライデル・マルティネス投手  
（右）アリエル・マルティネス捕手（今シーズンから日ハム）

### キューバの「人権問題」とは

国に留まれば命を危険に晒す状態にある人に「亡命してはいけない」というのは確かに人権無視でしょう。しかし、キューバがそのような国でないことは皆さんご存じの通りです。

今回の中日選手亡命に便乗して「文春オンライン」に「キューバは独裁国家である」、「キューバの野球選手は秘密警察に監視されている」などといったバイアスだらけの記事が掲載されました。筆者が根拠としている情報はフランシス・ロメロというジャーナリストのもので、この人物はキューバ反政府組織と関係が深く、亡命を手引するブローカーとのつながりが疑われています。

こうした情報を事実として記事にしてしまうメディアと、それを鵜呑みにしてヒステリックに燃え上がってしまう「人権派リベラル層」の軽薄さが今回の騒動のすべてです。

一方で、本当の「人権問題」は見過ごされています。それは、「キューバ人は亡命しなければ大リーグでプレイできない」という差別、人権の問題です。日本とキューバの間で結ばれているような移籍協定があれば、亡命する必要などありません。それを結ばず、ブローカーに稼がせ、選手に法を破らせ、キューバを中傷するために利用している米国の態度こそが問題の根本です。



### その後の両選手

ジャリエルは、ドミニカでビーチリゾートを楽しむ写真を自身のインスタグラムにアップしました。まるで善悪の区別がつかない子どもようです。

一方のライデル・マルティネスは、一連の騒動に動揺も見せず、完璧な守護神ぶりを発揮しています！皆さん、ぜひ応援して下さいね！







# 今、中南米では

中南米情勢が緊迫しています。  
CUBAPON はキューバ連帯の旗を掲げると同様に、中南米の人民の闘いと状況を発信します。

## 12 カ国中 11 カ国の大統領が結集！

# ● 南米首脳会議ひらかれる

5月30日、ブラジルの首都ブラジリアで、ルラ大統領提唱による『南米首脳会議』が開催され、南米大陸の12カ国中11カ国（ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、エクアドル、ベネズエラ、パラグアイ、ウルグアイ、ボリビア、ガイアナ、スリナム）の大統領が一堂に会しました

尚、クーデターで発足したペルー政権のディナ・ポルアルテ大統領は汚職捜査で国外渡航を禁止され、閣僚評議会議長が参加しました。



会議では地域統合に向けた取り組みの継続、UNASUR の再建、共通通貨の新設、医療やインフラ整備の充実に向けた多国間の協議の促進、さらには、世界的な動きとなっている「脱ドル化」について話し合われた一方、チリ、ウルグアイがベネズエラの「人権問題」を取り上げ、反発する一幕もありました。

発端となったのは、ルラ大統領が「私が擁護するのは、それぞれの国が自己決定する主権国であるということだ。私は人民が参加して決定したブラジルの意志を尊重してほしい。私はブラジルに対し求めることをベネズエラに対しても求

める」と発言したことで、これにチリ・ウルグアイが「人権問題はより尊重されるべき」として反論したものです。

ほんの2年前、ラテンアメリカのほぼすべての国が「ベネズエラの人権問題」を取り沙汰してリマグループを結成、ベネズエラをあらゆる場から排除しようとしていました。それが一転、今ではベネズエラ批判はわずかに2カ国を残すのみになっています。

また、右派政権のウルグアイはともかく、自ら「左派政権」を自称するチリのボリッチ政権の立ち位置にむしろ疑念を残す結果となっています。

## マドゥロ大統領の発言



寛容、尊重をもって時代の扉を開けよう。ベネズエラについて疑問に思う者がいれば、我々はいかなる形であれ議論する用意がある！ともに大局的な努力をしよう。世界は急激に変化している。新たな潮流 BRICKS が世界の勢力図を塗り替える前衛になるだろう。ブラジルは BRICKS の一員だ。ラテンアメリカはじっとしているのか？反目し分断されたまま汽車が何度か通り過ぎるのを指をくわえて見ているのか？思想の話は脇に置いて、我々全員が承認しルラ大統領がリーダーシップを取っているこの会議がラテンアメリカの真の団結の場となるよう大局的見地を持って前に踏み出そう。

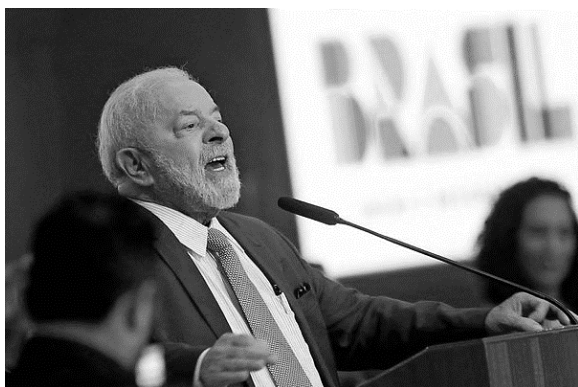
ブラジル

# 「ラテンアメリカの巨人」ルラの存在感

今年1月1日に就任したブラジルのルラ大統領は、この間、特にウクライナ紛争の停戦に向けた積極的な発言と行動で《西側メディアを除き》世界で注目されています。

中国、インドなどとともに「停戦」を呼びかけ、「ゼレンスキーを囲んで戦争祭」に終始したG7でも戦争を長引かせようとする勢力を痛烈に批判、ゼレンスキーがルラ大統領との会談を拒否した舞台裏など、『和平派の騎手』ルラ大統領の動きがメディアでも伝えられてきました。

南米はもちろん、グローバルサウスの代表的な存在として注目されています。



## グローバルサウスと ウクライナ紛争

「グローバルサウス」とは、南半球を中心とする新興国や途上国の総称で、主に中南米、アフリカ、中東、インド・東南アジアの国々を指します。ウクライナ紛争や米中対立をめぐる世界の分断が深まる中、こうした国々が欧米とは一線を画す動きで存在感を高めており、両陣営は何かか支持を取り付けようと頻りにアプローチを行っています。

しかし、そもそも格差を拡大させてきた先進国が加害者となって生み出したのがグローバルサウスであり、ロシアや中国との経済的なつながりで生き延びてきた国も少なくありません。国連でのロシア非難決議には賛成しても制裁決議には賛成せず、むしろロシア・中国とともに「脱ドル化」を進め、共存の方向に進んでいます。

### セニョリータのラ米★ウォッチ

CUBAPON ニュースを補完するツールとして、中南米を中心に「今、起きている」ホットなニュースをセニョリータ視点でピックアップし、メールでお届けしています。

配信ご希望の方はこちらのアドレスにメールを送って下さい！

[jvccpf@rmail.plala.or.jp](mailto:jvccpf@rmail.plala.or.jp)



## ウクライナ紛争停戦に向けて 「中立国でグループを！」(ルラ)

まず、理解すべきことは、この戦争は始まるべきではなかったということだ。始まったのは、ずっと前から世界的なリーダーたちの間に話し合う余地がなかったからだ。

私は戦争を食べ物にしているか、それとも、戦争を終わらせようとしているか？誰も終わらせようしないではないか！誰も！だが、私は平和について話す者だ。習近平、バイデン、ショルツ、マクロンと話した。停戦交渉の用意がある国々でグループを作らなければならない。私はこの戦争を終わらせたい。唯一の方法は交渉のテーブルにつくことだ。それが私の考えだ。

私はヨーロッパが仲裁の役割を果たすべきだと思っている。中立の立場を取るべきだ。しかし、ヨーロッパはこの戦争に直接的に関与している。ドイツ連邦の首相がブラジルを訪問したとき、以前に買ってあった戦車の砲弾を戦争のためにドイツに渡すよう求めてきた。私はショルツに答えた。

「私は売るつもりはない。なぜなら、1発でも撃ったらロシアはブラジルが売ったとわかるし、ブラジルは戦争に加担しているから見なすだろう」と。

私は、平和を構築できるよう、戦争に直接関与しな

## G7 ブラジル・ウクライナ会談中止の舞台裏

ルラ大統領はウクライナの対談相手が打ち合わせした会談に現れなかったと述べた。

ルラ大統領

「15時15分に二国間会談を行うはずだった。私たちは会場で待っていたが遅れると連絡があったが、結局、ゼレンスキーは現れなかった。きちんと約束していたが、彼は来られなかった」

一方、ウクライナのゼレンスキー大統領は、ドタキャンには触れず「ルラは自分に会いたくなかったのだ。能弁自慢の老獪さには我々は慣れっこになっている。今頃はおそらく落胆しているだろう」と述べた。

これに対し、ルラ大統領は、「私は落胆していないが、不快ではある。なぜならウクライナの平和の可能性について議論したかったのだから。ゼレンスキーは大人なのだから、自分が何をしているかわかっているはずだ」と述べた。



# 米務省の恣意的な行動を非難する！

多くの米国民がキューバとの友好を求めている



バイデン米政権は、「テロ支援国」リストにキューバを入れたトランプ政権の敵対政策を変えないばかりか、5月23日、新たに「テロ対策に協力していない国」に指定しました。これに対しキューバ人民権力全国議会（国会）国際委員会が抗議声明を出しましたので、以下の通り要旨を掲載し、キューバの思いを共有します。

- キューバ人民権力全国議会国際関係委員会は、キューバが米国のテロ対策に「全面的に協力していない」国として去る5月23日に米務省により指定されたことを欺瞞的行為として強く非難し、拒絶する。
- これは、キューバが一方的かつ虚偽のテロ支援国家リストに掲載され続けていることと併せて、国連総会で全世界的に拒絶されているキューバ国民に対する経済戦争（経済封鎖）という非人道的措置を正当化し、キューバを孤立させることだけを目的とした行為であり、テロ対策で模範的な成果を上げている国を、政治的な理由をもって恣意的かつ一方的なリストに入れ続けることは、米国政府にこうした重大な犯罪と闘う遺志があるのか疑われる。
- トランプ政権から引き続く、こうした欺瞞的な態度は経済封鎖の深刻な影響を増長させ、キューバ国民のすべての収入源を絶ち、保健や教育といった公的サービスの正常な運用を阻んでいる上、米国政府の報復を恐れて、キューバとの取引を停止した第三国の銀行の数が大きく増加させている。
- 医療分野では、必要な原材料や資材の購入に伴う支払いができず、国の医療制度において様々な物資不足を引き起こしている。また、2011年3月1日以降にキューバへの渡航歴がある場合、米国への入国には正式にビザを申請する必要があるなど、国の戦略的分野である観光業に対する直接的な攻撃もなされている。
- 米国連邦諸機関の支援を受けて、何百人ものキューバ人から家族を奪った悪名高いテロリストらが南フロリ

- ダの街を平然と歩いている米国に、キューバがテロを支援していると非難する道義的権限はまったくない。
- 米国政府は「キューバのテロ支援国家への指定は不当である」との世界の声に耳を傾けるべきである。また、米国内でも、多くの労働組合、市民団体、地方政府、弁護士会などがバイデン大統領政権に「キューバに対する経済封鎖やテロ支援国家リストへの指定を撤回」を求め、こうした80以上の決議案を、多くの米議会議員が賛同して可決している。
- 地域・国際レベルでは著名な政治家や元国家元首のほか、ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体（CELAC）、アフリカ連合、欧州連合などの組織がこの件に関し発言している。最近では、ジョゼップ・ボレル欧州連合外務・安全保障政策上級代表が「キューバのテロ支援国家指定はキューバの経済発展に深刻な問題を引き起こすと同時に、キューバに進出しているEU企業の運営を困難にする措置である」と述べている。
- 我々は再度、米国議会に対し、「この硬直した政策に終止符を打ち、キューバとの互恵的な関係の発展を求める」米国社会内の幅広い層の多数派の意見に耳を傾けるよう呼びかける。
- 私たちは世界中の議会に向けて、この国際的な異議申立てに加わり、我が国に対する不当な非難を糾弾することを強く求める。

2023年6月8日、ハバナ

人民権力全国議会（国会）  
国際関係委員会



（右から）鎌田事務局長・ケイコさん・君島共同代表・村上次長

## ようこそ、島のケイコさん

—青年の島日系人協会の新会長クボケイコさん初来日—

キューバ大使館から、青年の島日系人協会の新会長、クボケイコさんが JICA の招待で来日しているとの情報をいただき、5月30日、CUBAPON の役員3人で横浜の宿泊ホテルに会いに行きました。

これまで CUBAPON は日系人協会との友好活動、支援活動を積み重ねてきました。今年秋の CUBAPON 友好訪問団でもオプションツアーとして青年の島を訪れることにしています。

ケイコ会長とは、短い会見ではありましたが、世代が変わっても友好の絆を大切に守り育てていきたいとの思いをともにしました。